



# 人力車

## 製造工程

### 胴体



胴体(座席)は木製。座席、肘掛け、蹴込の取り付けを行う。

### 舵棒



舵棒は樫の木を、徐々に削って作る。

舵棒の先端で車夫が握る部分は、象鼻という。

### 幌



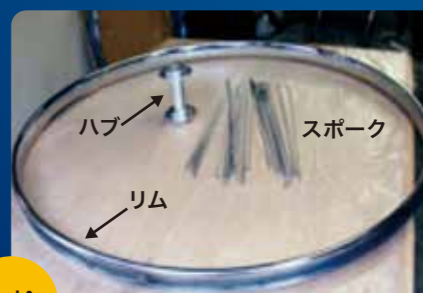
雨除け(屋根)の幌を張る骨の部分は孟宗竹、真竹、アルミニウムなどを使って作る。

## 人力車の構造



全てのパーツを組み立て完成。

車輪の中心部分のハブ、外周部分を支えているリム、それらをつなぐスポークなどの部品を組み立てる。



## 車輪

### 観光客に人気の人力車

人力車とは、人を乗せ、車夫が引いて走る二輪車<sup>くるま</sup>のことで、人力あるいは俥とも言われます。

始まりは1869(明治2)年に和泉要助らによる人力車の発明でした。人力車は、それ以前の駕籠<sup>かご</sup>などに比べて、その便利さから爆発的な人気となり、文明開化の象徴の一つとして広く普及しました。1875年(明治8年)ごろになると、人力車は日本からヨーロッパやアジア各国にも輸出されるようになり、生

産量も大きく伸びていきました。

しかし明治時代後半になると、電車や自動車などの交通機関が普及し、人力車の生産は徐々に減少していきました。

時はたち1970年ごろ、人力車が新たに注目されるようになりました。飛騨高山で観光用の人力車が営業を始めたことを皮切りに、各地に普及していったのです。当初は、京都のような風雅な街並みが残る観光地や、浅草などの人力車の似合う下町での営業が始まり、その後は各地の温泉街やレトロな街並みな

どに広がっていきました。観光名所を遊覧し、車夫が観光ガイドとして解説してくれるとあって、日本人観光客だけでなく外国人旅行者にも、大きな人気を集めています。

### リムは軽くて丈夫なアルミ製

基本的に人力車は、胴体(座席)、車輪、舵棒、幌<sup>ほろ</sup>などから構成されています。

胴体や舵棒は、木を削り出して作ります。雨除け

(屋根)は、布製の幌を張る骨には孟宗竹や真竹、アルミニウムなどを使います。骨の材質は、強度や軽さなど何を重視するかによって使い分けます。

車輪は、中心部分のハブ、外周部分を支えるリム、それらをつなぐスポークなどの部品を組み立てて作ります。このうちリムの材料はアルミニウムです。車輪のサイズは基本的に41インチ。大きくても軽くて丈夫なアルミニウムを使用し、町中を颯爽と駆け抜けるのです。